

【都市間連携を通じた環境国際ビジネスの推進(北九州市)】

課題(状況)



- ・戦後の高度成長期公害克服の過程で培われた高い環境技術を有する企業
- ・国内マーケットの縮小
- ・アジアに必要な環境保護と経済成長を両立させるグリーン・グロス

・大気汚染、水質汚濁等の環境規制

規制



・多様な技術開発で環境規制基準を突破

解決



具体的取組内容

①取組内容・スケジュール

アジア低炭素化センター開設(平成22年)
ー北九州/日本の環境技術を集約、環境ビジネスの手法でアジアの低炭素化に貢献
・開設以来企業・大学等と連携し73件を実施【具体的な事例】

廃棄物の中間処理事業(インドネシア)ー最終処分ゴミの減量化と廃棄物リサイクル事業化
電気電子機器廃棄物リサイクル事業(インド)

②予算など

国等の資金活用 25.9億円(平成22年～25年 4年間の支出額)

③推進・運用組織

センター及び市・関連団体の役割分担で実施

成功要因

- ・各都市のニーズ・事業内容に応じた技術を有する環境企業、大学等との連携
- ・低炭素化センターが関わることによる現地政府とのスムーズ関係構築

結果

- ・アジア42都市、75の企業・大学との連携による73件のプロジェクト組成・実施
- ・行政と企業の一体的な海外展開の取組みは4件の事業化に成功
- ・現地の技術も取入れた低コストでより環境にやさしい技術の開発・逆輸入

地域の変化

- ・廃棄物中間処理事業(インドネシア)
ーウェストピッカーと協働でプラスチックや金属のリサイクルを安全・衛生的に行う実証事業
→ ウェストピッカーの安定的な雇用創出、収入増が子どもの教育機会創出に繋がる

残る課題

- ・統合した計画により、様々な個別プロジェクトの有機的な連携を図り、効果を最大限追求することが必要

次の行動

- ・公害克服から環境都市へ至る経験・ノウハウを体系化した「北九州モデル」を作成(各都市の現状とニーズに適応した目標を設定、具体的な対策や技術を北九州市の事例を参照することで、取組みを推進)

目標



- 企業の有する技術と行政の持つ社会システムを結びつけたパッケージ型技術輸出
- ・アジア地域でのCO2排出量の削減(2005年北九州市排出量の1.5倍)
- ・現地の生活の質向上・環境改善への寄与

地域資源・人材/ 産学連携等



- ・公害克服してきた高い環境技術を持つものづくり企業群
- ・環境国際協力を通じて構築した都市間ネットワーク150ヶ国、8千人にも及ぶ海外研修生
- ・海外派遣の専門家